

Ryukoku University

龍谷大学の取り組みについて



龍谷大学 副学長 深尾 昌峰

龍谷大学について

環境サステナビリティ学部について

ネイチャープレナー・ジャパンについて

■ 龍谷大学の概要

1639年創設

学生数約 21,000人

3つのキャンパス

大宮(京都)
キャンパス

深草(京都)
キャンパス

瀬田(滋賀)
キャンパス

■ 龍谷大学の教育

10学部

心理学部	文学部	経済学部
経営学部	法学部	政策学部
国際学部	社会学部	先端理工学部
農学部	大学院：心理学研究科／文学研究科／実践真宗学研究科／経済学研究科／経営学研究科／法学研究科／政策学研究科／国際学研究科／社会学研究科／先端理工学研究科／農学研究科	

TOPICS

2027年4月、瀬田キャンパスに新たに

環境サステナビリティ学部
情報学部

を設置し、龍谷大学は12学部体制へ

※いずれの学部名称も仮称、設置構想中

Omiya Campus

大宮キャンパス

心理学部 (0-1年) 1
文学部 (0-1年) 1
文学部 (0-4年) 1

Fukakusa Campus

深草キャンパス

心理学部 (0-3年) 1
文学部 (0-3年) 1
経済学部 1
経営学部 1
法学部 1
政策学部 1
国際学部 1
社会学部 1

Seta Campus

瀬田キャンパス

先端理工学部 1
農学部 1

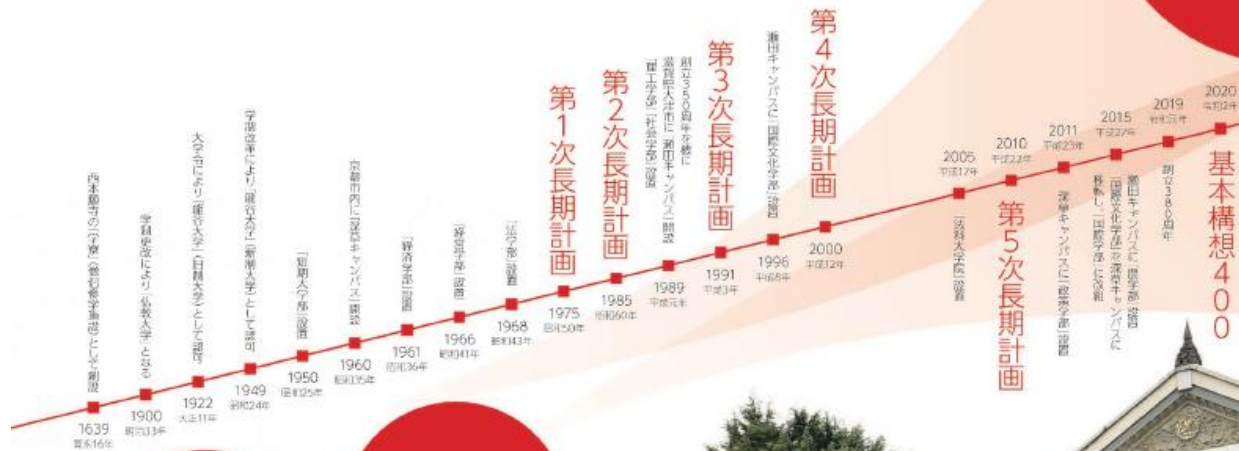


From 1639 to 2019

and the next 20 years

構想400を
通じた使命

2039年の
将来ビジョン



教育理念・
目的

建学の精神

「まごころ～Magokoro～」ある市民を育み、
新たな知と価値の創造を図ることで、あらゆる
「壁」や「違い」を乗り越え、世界の平和に寄与
するプラットフォームとなる。

仏教SDGs

「誰一人取り残さない」
「摂取不捨（せつしゆふしや）」

（すべての者をおさめとって見捨てない）

仏教の精神とSDGsを結びつける
龍谷大学ならではのアプローチ

行動哲学 「自省利他（じせいりた）」

社会に貢献できる人や活動を生み出すことを推進

長期目標

構想400では、次の長期目標を設定し、これらを達成することで、2039年を到達点とする「将来ビジョン」の実現をめざします。

①「まごころ～Magokoro～」ある市民を育むために、自省と対話を通じて、答えのない問いに向き合い続ける教育を展開する。

②革新的で創造性が高く、常に発展し続ける組織となる。

③研究及び社会への還元・社会との協働の各プロセスで様々な組織と連携し、コレクティブ・インパクトの創出をめざし、社会変革の中核的担い手となる。

④将来に向けての多様な選択肢を確保するため、キャンパス政策等に対応した新たな『財政基本計画』を策定する。特に、フローの構造改革のみならず、ストックに対するマネジメント体制を構築する。

⑤国内・国外を問わず社会から評価されるブランド及びポジションを確立する。

第2期中期計画（2024～2027年度）

サステナビリティへの「旅」－変革の加速へ－ Frontier of Change : Quest for sustainability

① 2期中期計画の要諦

第1期中期計画＜2020-2023年度＞の成果と課題を踏まえて策定した第2期中期計画＜2024-2027年度＞では、以下の点を重視しています。

- 「サステナビリティへの『旅』－変革の加速へ－」（Frontier of Change: Quest for Sustainability）を副題とし、旅（≡体験×共創×挑戦）を足掛かりに、価値創造へ
- 急激な環境変化や第3期中期計画以降の18歳人口の減少局面を見据え、第2期中期計画は「変革」を加速させる重要な4年間と位置づける

龍谷大学カーボンニュートラル宣言 (2022年)

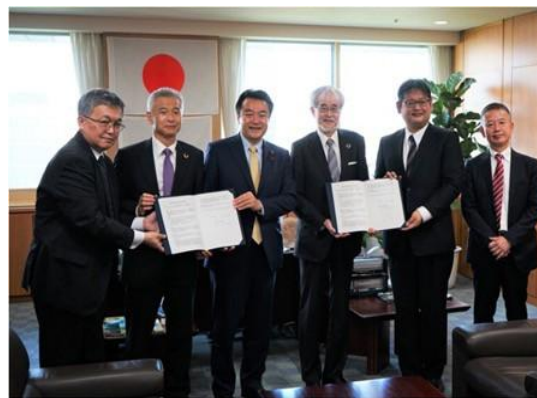
最エネ100%

キャンパスで使用するすべての電力が再生可能エネルギーへ



環境省と包括連携協定締結

脱炭素社会や地域循環共生圏の実現を担う「グリーン人材」の育成をめざす



学生気候会議

学生が環境について話し合い提言をまとめる（学長へ提言書を提出）



2039年までの長期目標の一つに「社会変革の中核的な担い手となる」ことを掲げ、地球規模の環境問題に取り組むべき最重要課題の一つと捉えて、

龍谷大学ネイチャーポジティブ宣言を发出

※日本の大学では初



龍谷大学について

環境サステナビリティ学部について

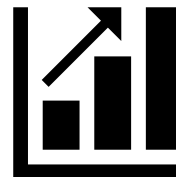
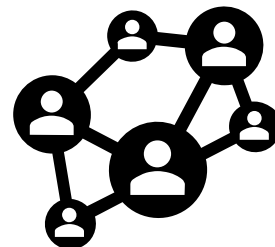
ネイチャープレナー・ジャパンについて

統合的視点と実践・体験の必要性

国際目標
ネイチャーポジティブ（自然再興）



経済・経営を中心とした
社会システム再構築



龍谷大学 環境サステナビリティ学部

先端理工学部環境科学課程における教育・研究実績を踏まえつつ大幅に発展

ネイチャーポジティブ時代を牽引する学部へ

全国初「環境サステナビリティ学部」 「実践的に課題解決に向き合える環境人材」育成

文理ともに学べるカリキュラム

都市環境工学と生物多様性科学、経済・経営学

専門プログラム

- ①地域デザインプログラム
- ②ネイチャーポジティブ経営プログラム
- ③生物多様性回復プログラム
- ④資源循環利用プログラム
- ⑤持続的水資源管理プログラム



環境省はじめ
多くの団体・企業等との共創



地域デザインプログラム

地域コミュニティに着目し、自然資本をベースとした地域の資本や地域経営について学び、地域の資本を適正に認識して持続的に発展していけるように地域をデザインする方策について考えます。



ネイチャーポジティブ経営プログラム

企業などの組織に着目し、生物多様性の定量化方法や生物多様性喪失が組織経営に及ぼす影響について学びネイチャーポジティブを組織経営に接続させる方策について考えます。



生物多様性回復プログラム

生態系とそれを支える生物多様性、さらには社会経済活動との相互作用について学び、生物多様性の保全・回復と社会経済活動との共存方策について考えます。



資源循環利用プログラム

社会経済活動に伴って排出される廃棄物に着目し、廃棄物廃棄の適正化や資源としての循環再利用について学び、循環経済の実現方策について考えます。



持続的水資源管理プログラム

すべての生命を支える水資源に着目し、水環境保全や水資源利用に係る技術的、社会経済的システムについて学ぶとともに、持続的な水資源管理のあり方について考えます。

体験を通じた共創と探求 「クエスト科目群」 (仮称)

1年次

「琵琶湖」をテーマとした身近な環境に係る**原体験**に触れながら**課題発見力**を養う

2年次

企業・団体等と連携。多種多様なフィールドにおける**リアルな課題**の解決に**チーム**で挑む

3~4
年次

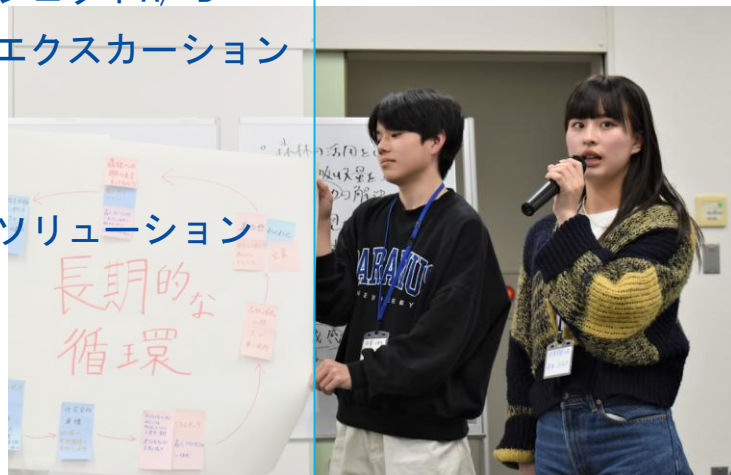
専門性に応じた**テーマ**を**探求**し、**学びの集大成**へ

対応する科目

琵琶湖プロジェクトA/ B
オンサイトエクサカーション

オンサイトソリューション

特別研究I
特別研究II
メンター実践





1年次

ホットスポット※を訪ね地域・環境の関わりを実感し「琵琶湖」や集水域の身近な地域・環境に関わる諸問題に触れ個々の問題の課題発見力を養う

冒険と発見：プロジェクト型の主体的な学びの反復

2年次

企業・団体等と連携したり 関心のある現場を訪れ多種多様なフィールドの深みやリアルな課題に挑む

経済・経営・工学・理学のうち活躍したい領域・学問・専門に傾倒

3・4年次

専門性に応じたテーマを探求し学びを集大成させる



※台湾、タイ、ベトナム、八重山諸島、釧路湿原、宮古島、足尾など

※新学部に関する設置計画は予定であり、内容に変更が生じる場合があります。

建学の精神に基づいて、サステナビリティをめぐる幅広い知識を身につけるとともに、**環境工学、生物多様性科学及び経済・経営学に係る専門知、並びにそれらを統合した視点を獲得し、持続可能な社会の創造に向けて、実践的に課題解決に向き合える環境人材を育成します。**

龍谷大学について

環境サステナビリティ学部について

ネイチャープレナー・ジャパンについて

MISSION ミッション

ネイチャープレナーを、経済の主役にする。

守るだけじゃない。変えていく。

自然のための行動が事業となり、経済成長の原動力となる。

持続可能な社会への、新しい選択肢を。

ネイチャープレナーが常識となる、その日まで。

NATURE- PRENEUR JAPAN

ネイチャープレナー・ジャパン

豊かな自然を、社会のそばに。

自然領域の起業家人材を、そのまんなか。

ネイチャープレナーとは、Nature（自然）とEntrepreneur（起業家/事業をつくる人）を組み合わせた造語です。

40億年の地球の歴史の中で、自然環境は大きな転換点を迎えています。

にも関わらず、自然を再生する事業モデルや成功事例はなかなか生まれていません。

私たちは自然領域を担っていく起業家精神あふれる人材のことを「ネイチャープレナー」と呼んでいます。

発掘・支援・育成といった人材育成により、「ネイチャーポジティブ（自然再興）」を目指しています。

3つの活動を柱に、自然と経済が連動した社会を目指します。

※現在、2026年度の本格的な事業開始に向けて、準備段階にあります。そのため、活動・事業の詳細は、今後変更となる場合があります。



01 ネイチャープレナー助成事業

ネイチャープレナーとは、自然を守るだけでなく、育みながら価値を創り出せる人。当然、多様な自然環境や課題に合わせ、事業のテーマもまた多様であるべきです。例えば自然資本再生型の事業創出から、広域サプライチェーンの構築、地域/流域単位でのネイチャーポジティブ推進まで幅広く支援していきます。重視しているのは、科学的知見に基づいた評価や専門的な伴走体制。点での支援にとどまらず、取り組みが経済活動として自立し、持続可能な産業として成長するためのサポートは惜しみません。



02 パートナー共創事業

豊かな自然と共存する社会をつくるためには、経済資本だけでなく人的資本、知的資本、社会関係資本といった様々な“応援資本”を集積することが不可欠です。私たちは企業・自治体・アカデミア・市民など多様な主体のハブとなり、資金だけでなく人材・知見・ネットワークといった応援リソースへのアクセスを可能にします。協働で助成や事業を推進するため、年1回のギャザリング、ワーキンググループ設置、研究会／勉強会の開催などをリード。異なる分野や地域の人々が出会い、学び合い、共創しあう“創発の場”を目指します。



03 社会発信事業

創出された事業を、点ではなく線にする。そのためには活動の成果や課題、現場で得られた知見を蓄積し、発信することでロールモデルを生み出すことが不可欠です。「ネイチャープレナー白書」など総合レポートとして発信し単なる実績紹介を超えて社会全体への学びや政策提言を進めます。さらに、新たな挑戦者のヒントとして還元し、現場と社会をつなぐ知の循環を目指します。

○国際共修型の学びを充実させていく～多様な“地域”を背景に価値創出できる人材

- ・ 国連大学と連携したプログラム開発など、日本の持つポテンシャルを活かす取り組みを
- ・ 価値創出を実現でき、グローバルに渡り合える人材

○地域社会での協働を促し、地域に根ざした取り組みを充実させていく

- ・ 地域に根ざした環境人材の育成が必要
- ・ 自治体が教育機関・NGOなどと連携し、「現場」を共有しながら当事者意識をもって人を育むフレームを充実させて欲しい
- ・ 地域脱炭素化及びそれを通じた地方創生に求められる環境人材の育成をより促進させるために、環境省側から地方自治体に働きかけ、大学・企業・NGOなどを巻き込むような枠組みや予算を

○ネイチャー・プレナーのような「グリーン人材×起業」を支援する



**RYUKOKU
UNIVERSITY**